

## 旅するタネ

田井中信子（千葉市）

日 時：2011年11月20日（日）10：30～12：00 天候：くもり

参加者：17名（男6名、女8名、子供3名）

担当指導者：岡田敬子、田井中信子

自ら動くことのできない植物は、どのような方法で子孫を広げていくかを主題にタネ（果実）を採集して考えることにした。

杉林に入ると、落葉の中から4～5本かたまって、ぼんぼりのようなクロヤツシロランのタネをみつけた。担当者がぼんぼりを軽く揺らしながら、でてきた極小のタネを紙に受けルーペで観察した。チヂミザサ、イノコズチのタネを衣服につけ、どうしてヒツツキムシといわれるかを考えながら採集した。オオハナワラビの群生している所では、シダ植物は孢子で増えること等を話した。

めじろんばを左に折れ、休耕田に枝を伸ばしたイヌシデ、モミジ、ヤブラン、マンリョウ等、植えた覚えのないのに庭に生えてくるものは鳥が肥料つきで運んだものでしょうなどと話しながら足元を見ると、ドングリがその重さ故に落ち転がっている。これも採集。

ベンチ前から下ノ畑へ登る階段までは自由に観察、採集してもらおう。

田んぼの側道でまとめを行った。意外に採集できるタネが少なかったので、担当者も集めたタネも含め散布別に分類した。

風散布…イヌシデ、モミジ、テイカカズラ、ダイオウ  
ショウミ、タコノアシ

水…ジュズダマ、ヒシ、クルミ、  
生きもの…イノコズチ、チヂミザサ、コブシ、カラス  
ウリ、エゴノキ、

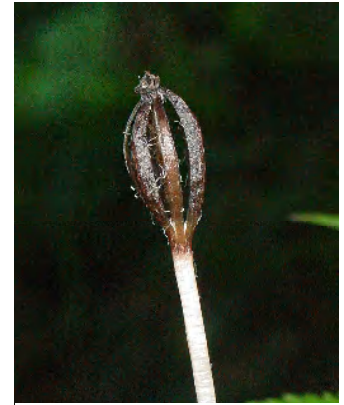
自力…ドングリ、フジ、カタバミ等

最後に折り紙でマツ、ラワンのタネを折って、空高く飛翔実験をした。水散布は実際のジュズダマ、クルミ、ヒシを小川に流し、水に浮き流れる様子を淵にたづねて観察した。

参加した中学の先生から、動けない植物がどのように分布を広げることがよく分かった。花のない季節でも色々楽しく過ごすことを学んだとの感想を頂く。

孫と一緒に住むご婦人は住宅地のすぐ側に自然豊かな谷津田があるとは知らなかった。

また一緒に来たいですと語り、折り紙のタネをお土産に帰られた。



ランの仲間の種子さや



イノコズチの種子